

「教えること」、「育てること」の両軸で 子どもたちの学ぶ力を伸ばしたい



塾長 小川 雅弘



36年にわたって教育活動に尽力してきたキャリアを活かし、地域の子どもたちの教育に役に立ちたいと一念発起して『おがわ塾』を立ち上げた小川塾長。今日は、そんな同氏のもとを俳優の村野武範氏が訪れ、教育に懸ける熱き想いに触れた。

——早速ですが、小川塾長の歩みから。

探究心が旺盛で、教科書に書いてあることを読んで勉強するだけでは物足りず、実際に経験してみたいと思うような子どもでした。たとえば歴史の教科書に、「昔の人は苦勞した」と書かれていれば、その苦勞がどんな苦勞なのか知りたくなるんです（笑）。学業修了後は教員としてキャリアをスタート。それから勤務先の校長の勧めをきっかけに、埋蔵文化財の発掘調査に携わることになったんです。その後、県の教育委員会の指導主事として、『浜松市博物館』で勤務するようになりまして。子ども向け博物館ワークシートの開発や、子ども向け歴史体験活動の企画・運営に携わりました。また

日本初となる「学校移動博物館」の企画・運営を手掛け、文部科学大臣賞を受賞することができたんですよ。

——素晴らしい功績ですね。その後も博物館勤務を続けられて？

浜松市の公立学校勤務に戻った後、再び博物館で勤務し、教育活動に尽力。当時はちょうどコンピュータが普及し始めたころで、教育の分野にも取り入れていきたいと考えましてね。著名な大学教授のもとに伺って教えを請い、教育現場へのIT導入を積極的にアシストしました。

——今や教育現場でもコンピュータは当たり前前の時代ですし、塾長には先見の明がありますね。それはやはり、塾長の探究心の強さによって培われたのでしょうか。

自分がこれまで知らなかったことを知ることができたり、今までできなかったことができたりするようになると、面白くてやめられなくなるんです（笑）。自分がやりたいことがあって、乗り越えられない壁があるなら、それをどうやって乗り越えるか方法を考えるだけ。今の子どもたちの中には、それを苦手としている子が多いように思いますね。

——なるほど。それは社会を生き抜くために必要な力ですよ。その後、独立さ

れた経緯とは？

浜松市の学校勤務に戻り、「都田ダッシュ村」と銘打った田畑をつくって他県の小学校と交流事業を行ったほか、ICTを活用して学習進度に合わせたドリル学習や、レゴブロックを利用したプログラミング学習にも取り組みました。そして、理想とする教育で浜松の子どもたちの教育の一助となるべく一念発起し、退職。昨年3月に『おがわ塾』を立ち上げました。これまでの教育活動で培ったノウハウ、経験を全て注ぎ込み、まずは学ぶ喜びを知って、自分に合った勉強方法を身につけてもらい、自ら進んで学ぶ「やらまいかの心」を育てたい。それが学力向上につながれば、と考えています。私共は「教えること」、「育てること」の両軸で、子どもたちの学ぶ力を伸ばしていくことに全力で取り組んでいきます。

（2019年6月取材）



次世代型個別指導 おがわ塾

静岡県浜松市東区半田山5丁目11-1
URL : <https://ogawajuku.shizuoka.jp>

『おがわ塾』さんでは、来年度から小学校で必修化されるプログラミング教育に対応するため、ロボットプログラミング講座を開講するなどプログラミングの授業に力を入れておられるそう。教育を取り巻く環境が変わりゆく中でも、小川塾長には変わらず子どもたちの学びを支えていってほしいですね」



interviewer : 村野 武範